

品質・収量の向上は健苗の適期移植から 浸種開始が早すぎないように注意

- 上越東地域におけるコシヒカリの1等級比率は77.1%で、上越地域全体の84.3%を下回り、収量についても、上越の作況単収指数が「100」となる中、平年に比べてやや少ない結果になりました。
- コシヒカリの主な格落ち理由が、除青未熟と心白粒ですので、7月の高温や少雨による渇水や登熟初期の高温等で稲体への影響が大きく、品質低下や収量低下を引き起こしたと思われます。
- まずは、初期生育を良くして、倒伏に強く太く充実した茎にするために、種子籾の浸種時期（は種時期）を見直し、健苗（規格苗）の適期移植を行いましょう。

育苗のポイント

- ・健苗（規格苗）の葉齢の目安は、稚苗が2.0葉、中苗が3.5葉です。
- ・田植えだけを遅らせても、は種（浸種）が早いと出穂はそれほど遅くなりません。
- ・また、葉齢の進んだ老化苗は、初期生育不良の要因となります。浸種やは種が早くなりすぎないように注意し、移植日から逆算して作業計画を立てましょう。
- ・R7年産コシヒカリBLは種子の休眠が深いので、浸種水温12℃、積算水温120℃をめやすに浸種する。

育苗計画

浸種開始は移植日から逆算。長すぎる育苗期間は老化苗の原因

- 平坦地では「つきあかり」は5月上旬、「五百万石」・「こしいぶき」などは5月10日頃までに移植しましょう。中山間地の早生品種の移植は5月中旬をめやすに可能な範囲で早く植えられるように計画しましょう。
- 「コシヒカリ」は出穂時期が最も高温となる時期を避けるため、5月10日以降に移植できるように浸種計画を立てましょう。
- 浸種が早くなりすぎないように注意し、移植日から逆算して作業計画をたてましょう。
- 令和7年産コシヒカリBL種子は休眠が非常に深いと推定されているので、発芽揃いを良くするため、浸種水温12℃、積算水温120℃をめやすに浸種しましょう。
- 露地プール育苗は低温条件で活着が劣ることや、4月の低水温でマット形成が不良となることのあるため、4月20日以降のは種とするか、保温効果の高い被覆資材を使用する等の対策を行いましょう。
- 早すぎる浸種・は種は老化苗になりやすく初期生育に影響を及ぼすので、注意しましょう。

表 育苗スケジュールの例（5月15日移植の場合）

育苗様式		育苗日数	浸種		催芽	は種	田植え
稚	ハウス	20日	4/13	(10日間) →	4/23	→ 4/25	→ 5/15
苗	露地プール	25日	4/8	(10日間) →	4/18	→ 4/20	→ 5/15
中	苗	30～35日	4/3	(10日間) →	4/13	→ 4/15	→ 5/15

お問い合わせ：上越東農林事務所 普及課 作物担当

TEL：025-592-3848 FAX：025-592-3591

※次年度以降は、早すぎる浸種・は種作業を防止するため、2月中の「上越東 水稻栽培技術情報」の発行をしない予定です。